

～秋田県での栽培事例および取り組み～
かみふうか
エダマメ「神風香[®]」を栽培して

株式会社高井南茄園
常務取締役
金野 豊秋(こんのとよあき)

1.はじめに

秋田県ではエダマメの産地化を推進するため、平成22年に全ての関係者が集まり「えだまめ販売戦略会議」を立ち上げました。そして、東京都中央卸売市場7～10月入荷量でエダマメ日本一になることを目標に掲げ、品種、栽培技術、出荷資材の統一、市場・量販店への宣伝活動、機械化推進のための助成など、あらゆる戦略を考えました。その結果、秋田県は平成27年、平成28年と2年連続で日本一になることができました。今後も面積を拡大する予定で、日本一のエダマメ産地を目指して日々取り組んでいます。

2.「神風香」の導入経緯

秋田県のエダマメは、特長によって下記3種類のグループに分け、品質と鮮度保持のためP-プラスの袋で出荷されます。

- ①従来からあるエダマメ:「サヤムスメ」のような香りと味(青色の出荷袋)
- ②香りのあるエダマメ:「味風香」のような香りと味(水色の出荷袋)
- ③秋田県が育成したエダマメ:「あきた香り五葉」「秋田ほのか」など(オレンジの出荷袋)

香りのあるエダマメは人気が高く、他社の品種が有名ですが、「味風香」を栽培するようになって出荷期が少し広くなりました。しかしながら、もっと早く収穫できる品種を求めていたため、平成28年に「神風香」を試作してみました。その結果、他の極早生と比べて莢が大きく、3～4粒莢の割合が高かったです。香りや味もとても良いことから、平成29年に拡大試作と試験販売を行いました。初期生育が

順調でない場合は、小ぢんまりとした草勢になり、収量が減少する傾向がみられましたが、他の極早生種も大体同様の傾向にあるので、あまりマイナスとは判断されませんでした。そして平成30年は、「神風香」が秋田県において多く作付られました。これで、「神風香」、「味風香」、他社品種、「雪音」と、7月下旬から9月上旬まで香りのある美味しいエダマメを続けて収穫し、販売できるようになりました。

3.「神風香」栽培のポイント

3年の栽培経験で話せることですが、まずは初期生育を順調にすることが重要なポイントです。マルチ栽培は必須で、初期はアイホッカなど不織布のベタ掛けも必要だと思います。元肥については色々な考え方があると思いますが、私は10aあたり成分量で窒素8～10kgを入れるべきだと考えます。また、開花初期に雪印種苗の植物活力資材「ジャックスパワー」を葉面散布すると、着莢や3粒莢率が向上すると思います。



▲「神風香」のハウス栽培



▲「神風香」の露地マルチ栽培



▲秋田県のエダマメ出荷袋